

夏に挑んだ多彩な活動

各学科の研修・実習 ― 汗の結晶を期して

埼玉県と岐阜県で日中の最高気温40.9℃と74年ぶりに観測史上の最高記録を更新した今年の夏、それぞれの学科における実践を重視した体験学習や研修に多くの学生が参加して貴重な経験を積んだ。(1～5面に関連記事)



- ▲ 日本史学科の学生が、栃木市にある圓通寺古墳の発掘調査を実施。4年目となった今年は石室の入口周辺が確認され、鉄製品などが多数出土した。(関連記事は2面)

- ▼ パネルシアターの創始者である古宇田亮順氏を講師に迎えて行われた初等教育学科講演会。写真、パネルシアターを利用して全員で手遊びをしている様子。(関連記事は5面)



- ▲ 国文学科コース別研修旅行で、日本語・日本文学コースの学生が芭蕉稲荷(芭蕉庵史蹟)を見学した。(関連記事は3面)



國學院大學
栃木短期大学
栃木市平井町608
〒328-8588
TEL0282-22-5511
FAX0282-22-5743
編集 学報編集部

第155号

たゞ暫し まじろみ覚むる
かそけさは、若きその日
の悲しみの如
『倭をくま』
釋 道空

日本史学科

圓通寺古墳の発掘調査

本学日本史学科では、考古学発掘実習の一環として平成16年から栃木市にある圓通寺古墳を発掘調査してきた。圓通寺古墳は、30mを超える前方後円墳である。今年度は、8月21日から8月29日まで、参加人数約50名で実施し、古墳の葬られた人物に近づく新たな発見があり、鉄製品など多数の遺物を発掘することができた。

圓通寺古墳は、栃木市の東南部、巴波川の東側、圓通寺の境内に位置する。古墳の規模は、測量調査の結果、現状で約40m程の規模であると推測される。古墳の時期は、出土した埴輪や土器などから、6世紀後半のものである可能性が高い。

研修・実習

今年度の調査では、石室の入り口付近を確認し、この周辺から鉄鏃（鉄製の矢じり）やガラス玉（首飾り）などが集中して出土した。石室の入り口で、このよう

な遺物が発見される例は、極めて稀である。おそらく、古墳に遺体を葬ったのちに、故人を偲んで何らかのお祭りが行われた可能性が考えられる貴重な例である。

さらに発掘調査の結果、予想していなかった事実が明らかとなった。まず注目できるのは、墳丘の表面に川原石などを葺く、葺石をもつ古墳であり葺石をもつ古墳は、栃木県内では稀で、群馬県によく見られる特徴である。そして、次に注目できるのは、出土した埴輪のなかに、群馬県から持ち込まれたものがあることである。これらの特徴から、古墳の被葬者は群馬県に縁のある人物の可能性が出てきた。なぜ、栃木市にまでそのような人物が来たのか。謎は深まるばかりである。今後も調査を続ける予定であり、ぜひ実際の現場に足を運んでいただきたい。

史跡調査研修

今年度の史跡調査研修は、7月10日に、栃木県埋蔵文化財センターとしもつけ風土記の丘資料館、そして宇都宮市



しもつけ風土記の丘資料館で解説を聞きながらメモを取る学生たち

の大谷寺と大谷資料館を見学した。大谷寺では、住職の詳しい説明を受け、千手観音像などの貴重な文化財をみることで、また大谷資料館では地下数10mの深さの大谷石の採掘場を目にすることができた。

栃木県埋蔵文化財センターでは、収蔵庫や保存化学室、そして実際の遺物の整理作業の様子を見学でき、学生にとっても新鮮な体験であった。特に、今回訪問した埋蔵文化財センターでは、本学卒業生が実際に多数整理作業に携わっており、先輩の活躍に刺激を受けた学生も少なくないようであった。

博物館実習

7月11日と13日に、学芸員課程受講者の、博物館実務見学実習が行われた。この実習は、実際に博物館を訪れ、学芸員の仕事を学ぶことを目的にしたものである。11日は2年生39名が佐野市立郷土博物館・栗田美術館（足利市）、13日は1年生42名が栃木県立博物館をそれぞれ一般観覧者が入ることのできない収蔵庫・作業室などを、学芸員の解説を受けながら詳細に見学し、学芸員の業務を学習した。特に栃木県立博物館では、広大なトラック・ヤード、セキュリティが完備した収蔵庫など、博物館の構造を実体験することができた。

古文書調査実習

7月17日・19日の3日間、本学において2年生の日本史コース「古文書学演習」履修学生と古文書研究会学生の調査実習として、実物の古文書を取り扱う史料整理と目録作成を実施した。指導教員は、田中正弘学科長・鍛代敏雄教授・深井雅海教授の3名。本

学科の学生31名・聴講生1名が参加した。3日間で多数の目録を作成したが、終了後、学生からは前よりも読めるようになり、内容も理解したいと思った、などの感想が出された。

考古学フィールドワーク

今年度の考古学フィールドワークは、昨年度に引き続き栃木県栃木市圓通寺古墳の調査を行った。詳細については、先に述べた通りである。



山下遺跡作業風景

考古学研究室の発掘調査では、新潟県長岡市山下（さんか）遺跡の調査を行った。縄文時代中期（約5000年前）の集落遺跡で、華麗な文様で有名な火焔土器を出土する遺跡である。調査は5年目で



山下遺跡で小学生を指導する学生

あり、新潟県立歴史博物館と共同で行っている。調査の結果、昨年以上に大量の土器や石器が出土し、炎天下のなか学生達は時間をかけて実測などの作業にあたった。

昨年度と同様に本フィールドワークを受講して國學院大學に編入した卒業生が後輩の指導にあたり、調査がより円滑に実施できるようになった。

なお、調査後半には、はじめての試みとして、本学科学生の指導のもと、小学生の体験発掘が実施された。大学と地域の連携を進める上で、重要であり、今後も進めていきたい。調査は来年度以降も継続する。

夏に挑んだ

あり、新潟県立歴史博物館と共同で行っている。調査の結果、昨年以上に大量の土器や石器が出土し、炎天下のなか学生達は時間をかけて実測などの作業にあたった。

国文学科

コース別研修旅行

国文学科では、毎年恒例の行事として、夏休み最後の週末を利用して、一年生を対象にコース別課外研修を実施している。

本年度も、8月31日(金)～9月1日(土)の日程で、実施された。

各コース別の概要は以下の通りである。

【日本語・日本文学コース】

本コースは、「江戸と東京の文学と歴史を学ぶ」をテーマに、古典文学・近代文学・日本文学に関係の深い博物館・文学館等を訪ねた。

初日は、まず両国駅に集合し、江戸東京博物館を見学した。この博物館は、実際に触れることのできる展示物が多く、江戸・東京の文化と歴史を存分に味わうことができた。

その後、地下鉄で森下へ移動し、深川の芭蕉記念館を訪れた。館内には芭蕉とその門人達に関わる展示が豊富で、俳諧の歴史について学ぶことができた。館内の展示を見た

後、隅田川沿いを散策し、芭蕉関係の遺跡を見学した。

2日目は、神田からお茶の水に移動し、湯島聖堂・ニコライ堂を見学し、神保町の古本街を自由に散策した。

神保町で昼食を取った後、上野へ向かい、上野公園内にある東京国立博物館(本館・東洋館・法隆寺宝物館)を見学した。国宝・重要文化財等貴重な展示物が多く展示されており、大変見応えがあった。

この時、ちょうど平成館では、特別展「京都五山・禅の文化展」が開催中で、中世文学・近世文学に大きな影響を与えた京都五山の禅僧達の描いたたくさんの書画を見ることができた。

非常に有意義な研修であったと思う。

【創作文芸コース】

本コースは、「創作の現場を訪ねて」をテーマに実施した。

1日目は、東京駅に集合し、電車で三鷹駅まで移動し、昼食を取った後、玉川上水沿いの風の散歩道を歩いた。太宰治の『おさん』に登場する百日紅を見学し、井心亭に立ち

寄った後、栃木にも馴染み深い山本有三の邸宅を記念館とした「山本有三記念館」を見学した。

その後、学生達が大変期待していた「三鷹の森ジブリ美術館」に入館し、日本のアニメの制作現場の雰囲気や存分に味わい楽しんだ。

2日目は、九段下に向かい、周辺を散策した後、昼食を取り、その後、「神田の古書店街」へ移動し、そこで自由行動とした。漫画専門店を訪ね回る学生や廉価な小説を買い漁る学生など、それぞれに本の街を楽しんだようである。

3時半に九段下駅で予定通り解散し、それぞれ帰途についた。



創作文芸コース1日目 三鷹の森ジブリ美術館を見学して記念撮影

【民俗文芸コース】

本コースは、「下総国における庶民信仰の古刹と民俗文芸ゆかりの地をめぐる」をテーマに、千葉・東京を探索した。

1日目は、日暮里駅に集合し、京成線で佐倉へ向かった。国立歴史民俗博物館で、「日本人の民俗世界」をテーマとする第四展示場を中心に、同館研究部准教授・関沢まゆみ先生の解説・指導のもとに、ゆつくりと展示品を観た。



民俗文芸コースの2日目 真間の井跡を見学している様子

館内のレストランで、古代米の昼食を取った後、成田へ移動し、現世利益の不動信仰で知られる成田山新勝寺にお参りした。

新勝寺本堂で行われたこの

研修・実習



JR佐野駅
おしどり塚伝説の銅像の前で

民俗文芸講読(郷土文芸) 文学散歩

日最後の「御護摩祈禱」を参観することができた。
御護摩祈禱とは、不動尊を本尊としてその前に護摩壇を設け、護摩木という特別な薪をたいて、諸願の成就を祈る真言密教の修法である。
2日目は、市川に移動し、『万葉集』の伝説歌の美しいヒロインである真間の手児奈ゆかりの地、「真間の継橋」「手児奈霊堂」「真間の井」などを歩き、最後に両国の江戸東京博物館を参観し、両国駅前で解散した。

国文学科1年郷土文芸講座の文学散歩は、7月9日(月)に行われた。コースは、歌枕室の八島・下野国府跡(栃木

市)・万葉集東歌の三義山・中世の説話おしどり塚・東歌の安蘇の河原・俵藤太総巻のある唐沢山神社(佐野市)・慈覚大師修行の寺で小野小町の伝説地大慈寺・国重要文化財の村檜神社(岩舟町)。
万葉集東歌「下野の三義の山の小檜のすまぐはし児ろは誰が筈か持たむ」は、美しいあの娘は誰と結婚するのかなと、ひそかに愛する青年の心情を詠んだ歌である。

一方、「下野の安蘇の河原よ石踏まず空よと来ぬよ汝が心告れ」は、娘の元へ飛んで行って愛を告白する積極的な心情を述べた歌である。

昭和52年から、女子高や本学でどちらの歌の男性に魅かれるかと尋ねて来た。最初の1、2年は、全員三義山の方に手を挙げたが、その後は少しずつ変化して、10年後以降は完全に逆転してしまった。

家政学科

家政充実の

フード系見学会

フードスペシャリストを目指す家政学科生活科学系学生



小山グランドホテルを紹介したリーフレットと学生に配布したフード見学会のレジュメ

24名(1年生18名+2年生6名)を対象として、フード系見学会が7月10日に行われた。

フードスペシャリストは食品の流通から消費にいたる分野で、食品の安全性、食品流通・消費・食空間のコーディネートなど時代に対応した食品産業の実学を学び、これらに対応できる高度の知識・技術を有する「食」の専門職である。見学先は栃木県南公設地方卸売市場、小山グランドホテル、キューピー(株)五霞工場の三カ所であった。

卸売市場では物流の実態等を学ぶと同時に、 -150°C の冷凍庫に入り、超低温を体感した。

小山グランドホテルでは、ホテルやレストランにおける料理、食事マナー、食空間、

テーブルウェアなどを体験した。また、表の華やかさを演出する裏側(厨房)の調理現場も見学した。

キューピー(株)五霞工場では、近代設備の下、1日40tの卵を処理できる割卵器や植物工場(太陽のない屋内での水耕栽培)を見学した。

学生にとっては見るもの聞くものがほとんど初めてであり、大きな刺激を受け、フードスペシャリスト資格取得に向け、気持を新たにしたいものと思われる。

より実践的に 臨床検査

講義と実習

7月9日、家政学科1年生養護教諭課程履修者52名を対象に臨床検査の講義と実習が行われた。

学校では、児童生徒や教職員員の健康診断の項目として尿や心電図等の検査が実施されている。健康診断に携わる養護教諭にとって臨床検査の知識は、不可欠である。

講師は、臨床検査技師の養成にあたっておられる滝澤先生と臨床検査機関「エヌ・

シー・エル」の臨床検査技師4名を招いて行われた。

「臨床検査とはどのような検査か」「検査で何が分かるのか」「どのような検査があるのか」等の基礎講義があり、その後健康診断項目の尿、血液、寄生虫、心電図について講義と実習が行われた。寄生虫については、蟻虫卵標本の顕微鏡による観察が行われた。実習後の感想として自分の尿を自分で検査する実習体験をして、尿は今まで汚いものと思っていたが、体の中の様々な情報を運んでくれる貴重なものとして、人間の排泄物に対する考え方が変わった。心電図の機械の操作を経験し



滝澤先生の講義を熱心に聞く学生たち

夏に挑んだ

て心電図に興味が湧いた等、実習の効果が見られた。

保育学で
二杉幼稚園観察

家政学科で開講している保育学は養護教諭のための保育学Aと、家庭科教諭のための保育学Bに分かれています。中学の家庭科には保育の領域が含まれているため、教師は保育の現場を知っておく必要があります。また、近頃では職場体験として地域の保育園での保育体験が男女問わず生徒の人気を集めています。

そこで本学では、二杉幼稚園のご協力を得て保育学B受講生を対象とした半日の保育観察を実施しています。短い時間ですが、元氣な幼稚園児たちと一緒に遊び、先生方の幼児への接し方にじかに触れる貴重な機会となっています。

今年は7月11日(水)の午前中に2年生5名が二杉幼稚園を訪れました。はじめに主任の稲葉幸子先生に保育目標や観察にあたっての注意などを話していただいて、一人ずつ保育室に分かれました。この

夏は7月に入ってから曇りや雨が続きましたが、この日も小雨模様で、園庭で遊ぶことはできませんでした。

子ども達は三々五々登園して来るので、最初はがらんとした保育室で何をしたらよいかわからず戸惑っていた学生もいましたが、園バスが到着して園児が揃う頃には、すっかり子ども達の輪に入って遊べていました。お集まりの後では、園をあげての夏の行事「夕涼み会」の前だったので、おばけ音頭など夏の宵にふさわしい踊りを練習して、とても楽しそうでした。

観察を終えて冷たい麦茶をいただきながらの反省会で、「6月に中学で教育実習をしてきたけれど、年長さんがこんなにしっかりと友達に注意をして、注意された方も素直に聞いて直す場面を目の当たりにして、幼稚園児にできることがどうして中学生にはできないのだろうか、と考えさせられた」という感想が出されました。

一人ひとりの人間性に働きかける保育の意義を垣間見る観察となりました。

初等教育学科講演会

魅力いっぱいパネルシアター

初等教育学科の講演会が7月9日、パネルシアターの創始者、古宇田亮順先生を講師にお招きして行われた。古宇田先生は、作って遊ぶ幼児保育教材「パネルシアター」の創始、創案をされた方である。その発明普及により正力松太郎賞を受賞。日本全国はもちろん、世界中で活躍されているお忙しい先生である。

幼稚園、小学校の教師を目指す学生たちにとって、パネルシアターは是非使ってみたい教具のひとつである。ビデオや授業で学び、自分たちでも作って演じていたが、やはり古宇田先生に直接お話を伺い、その実際に触れたいとい



古宇田亮順先生による
パネルシアター

うのがかねてからの夢であった。その夢が実現したこの日だった。

先生の軽快な歌声とともに白地のパネルの上に可愛い動物たちがどんどん登場する。学生たちも思わず手拍子を取る。絵が何の変哲もないパネルにビタッと吸い付くようにくつつくのが不思議だ。不織布という特殊な布の性質を利用して描かれているという。絵は両面に描かれているものもある。前を向いていた豚くんがくると後ろを向くと小さな小さなしっぽ。そのしっぽが動く。絵にいろいろの仕掛けがしてあって楽しい。ウサギの耳が伸びる。小さな蝶をさつと撫でると、沢山の色とりどりの蝶が現れ乱舞する。思いがけない出来事に、学生たちは「おおっ」と声を上げ、拍手が起きる。先生の絶妙の洒落も楽しい。

パネルに絵を貼るという単純なしくみの中でこんなにも多彩で夢の広がる展開がで

るものか。学生たちの得たものは大きい。古宇田先生の優しさとパネルシアターの世界に入り込んでしまいたいという間に時間が過ぎていった。

初教このはな会

教員採用試験対策特別講座

6月16日午後、初教このはな会幹事で壬生北小学校教頭の室井妙子先生(第8期)を講師に、教員採用試験対策特別講座が開かれた。半月後に受験する初等教育学科2年生と県内の他群馬、福島などから集まった若い卒業生、そして1年生の約50名が採用試験突破に向けてお話を伺った。

自分はなぜ教師になりたいのか、そしてどのような教師を目指すのかという明確なビジョンを持つことが大切だと室井先生は力説された。またご同行下さった三年目の先生は、採用試験にトライしていた頃の過ごし方や自分に合った勉強方法などについて体験を交えて快活に話された。受験を間近に控えた参加者は、気持ちを引き締め直しているようだった。

酷暑のなか キャンパス見学に579名が参加 学科模擬授業、保護者も受講生に

平成19年度キャンパス見学会が7月21日、8月4日、8月18日、9月8日に開催された。例年、同時期に催され、本学を受験対象校と考えている高校生が参加するが、その保護者の参加が年々増加しており、本年は全参加高校生の49%に達した。キャンパス見学会が、受験生自身にとって、大学を知る大切な機会であると同時に、その保護者にとっても、わが子の将来を託する大学を、大人の目で見極める場として活用されていることがうかがえる。(3カ年の保護者参加の推移、17年・33%、18年・36%、19年・49%)

本年のキャンパス見学会実施計画においては、保護者の関心にも着目し、受験生が資料として求める、学科構成や資格、卒業時の進路については、もちろんであるが、特に全体会においては中村幸弘学長が、本学の教育が目指している、人格形成教育、教養教育の方向性とそのカリキュラ

ムのありかたを強調した。また、学科会では学科長を中心に、特色ある学科カリキュラムの内容と資格、進路の連携が具体的に示され、模擬授業が公開された。授業は参加型が多く保護者も生徒とともに参加していた。さらに、実のある大学生生活を送るために、高校生の間に、学んでおくべき内容などを示唆し、教育は、高大連携していることが力説された。

見学会は、12時30分から15時30分までの3時間、一部・



キャンパス見学会に参加する
高校生と保護者

日本史学科 サマースクール



よろいを着よう

日本史学科が主催する「高校生のためのサマースクール」が、本年度も下記の日程で陸会館を会場に開催された。

期 日	テ ー マ
8月2日(木)	実習 中国茶を飲む 講義 将軍のおことば
8月3日(金)	講義 信長の手紙を写す 講義 歴史番組の制作
8月4日(土)	講義 旗本のアメリカ体験 実習 よろいを着よう

(キャンパス見学会開催日)

全体会(60分)、二部・施設見学(30分)、三部・希望学科会(90分)で構成された。4回の参加者は、生徒・保護者合計で579名。地域は、北は青森県から南は三重県まで16都県に及んだ。生徒、参加学科別での本年度の特長は、国文学科で前年度比130%に達したことである。19年度入試においても、本学、人文系学科の安定がみられた。パブル経済崩壊後、社会現象として、資格第一の短大志向が続いていたが、世の中の回復とともに、知識と技能の両立が再び求められようになってきたことに要因があると思われる。

新学長のもと

平成20年度入学試験 説明会を開催

6月5日、10時30分から、西3号館大会議室において、平成20年度学生募集に関する高等学校教員対象説明会が開催された。説明会には、招待した栃木、福島・茨城・群馬・埼玉県の36校が参加した。説明会では、中村幸弘学長が、参加各校の先生方に着任の挨拶をされるとともに、学長が、全1年生を対象とする必修科目「国柄総合教養」を受け持ち、入学した学生が教養人として成長してゆく基礎教育を行うこと、教養科目の

教育と専門科目の高い知識教育のバランスのとれたカリキュラムにより、有用な社会人となる教育を行うことを述べられた。また、5学科長から、他の短大にはない、学科の特長をアピールした。入学試験に関しては、事務局から、特に、一般推薦入試における調査書・面接・小論文の配点について、指定校推薦人数枠の取扱の変更について、卒業生子弟入試の新設について、全学科に面接を課している意味についての説明をした。また教育の成果としての進路状況を示した。質疑ののち、施設見学及び学校別個別相談会を行い終了した。

夢の実現に向けてステップアップ

初等教育学科

夏期教育研修
教育の観察と参加

教室での講義・演習の大切さはもちろんであるが、本学初等教育学科独自の教育現場体験学習として、1年生対象の「夏期教育研修」が6月18日から23日までの6日間、また、2年生対象の「教育の観察と参加」が6月18日から22日の5日間にわたって実施された。

《夏期教育研修》

研修は、まず初日の「栃木市内幼稚園・小学校観察」と、続いて前半・後半の二団に分かれて2泊3日で実施された「あきやま学寮宿泊研修」とで構成されている。



こぼと幼稚園にて

これらは、卒業と同時に幼稚園2種免許と小2種免許の両免許取得を目的に入学してきた1年生にとって、入学後2か月にして所期の目的を自覚する体験として位置づけられている。教師としての視点で教育現場に初めて接して観察・体験し、それぞれの観察内容をまとめてそれを皆の前で発表するまでを主軸としており、『夏期教育研修の記録』として学生たちの手でまとめられ発行される。

「栃木市内幼稚園・小学校観察」は、若葉、アルス、栃木みどり、二杉、おおひらふじ幼稚園の5幼稚園と、栃木第一、栃木第二、栃木第三、栃木第四、栃木第五、南小学



観察研修をする学生たち

校の6小学校で実施された。学生たちは、登園・登校からオリエンテーション、保育・授業の観察、昼食や清掃指導も含めて、幼稚園・小学校の1日の流れを体験し、さらに園長・校長先生からの講話や、本学卒業生などの先輩教

《教育の観察と参加》

1年次の夏期教育研修と学習の成果とを踏まえて、さらに10月の教育実習へのステップとして、「教育の観察と参加」が5日間実施され、83名の学生が貴重な体験をさせていただいた。ご協力いただいたのは出身の幼稚園・小学校

師からの体験発表や座談会での質問や感想等を通して、教職を目指す2年間の学習の動機づけがなされた。

「宿泊研修」は、昭和57年以来25年間にわたって利用してきた唐沢青年の家が、昨年度をもって閉所してしまったため、今年度からは同じ佐野市内の『あきやま学寮』を利用することになった。唐沢青年の家同様、緑に囲まれた施設であるが、青年の家の網戸の生活とは違ってさすがに冷房完備で、昨年までの学生とは大違いの快適な3日間を過ごすことができた。

1日目は、到着後に開講式と昼食、その後1時から夕食までの4時間半にわたる観察研修では栃木市内の幼稚園・

を主とした、15幼稚園・61小学校であった。

本学初等教育学科では幼・小両免許を取得できるのにもかかわらず、主専攻の学校種でのみ教育実習を実施することから、原則として10月に幼稚園で教育実習をする学生は今回は小学校で、小学校で教育実習をする学生は今回幼稚園

小学校観察の話し合いのまとめと発表が、グループ別および全体会で行われた。そして夕食後には学生企画の表現活動の発表で初日を終わらせた。

翌日は午前中に佐野市内の犬伏・こぼと幼稚園と城北・栃本小学校の観察である。栃木と佐野とは観察する幼稚園・小学校を逆にするということで、幼・小両免許を取得できるという学科の特性に合わせた内容になっている。午後は昨日同様観察研修で、この日の観察のまとめと発表がなされ、夕食後にはキャンプファイヤーで親交を深めた。

最終日は研修の感想を述べ合う「ひとりひとこと」の後、閉講式を行ってから帰路についた。

園で観察と参加を行うこととして、特性に合わせた配慮をしている。保育・授業はもろんのこと、その他教育現場の実際を観察すると同時に一歩踏み込んで、許される範囲ではあるが先生方の助手のような形で保育・授業・学級経営・管理事務などの準備等の仕事に参加させていただいた。

恩師・学友と旧情を温めた斯花会

第40回 斯花会・懇親会開催

第40回斯花会総会・懇親会

が、7月22日、栃木駅前の学園教育センターとサンプラザ栃木を会場として開催された。斯花会総会・懇親会は毎年、栃木（母校）と東京方面を交互に開催しており、今年は栃木での開催であった。出席者は恩師教職員・前教職員の先生方が49名、会員が79名であった。

総会

総会は午前11時から教育センターにおいて幹事長小川浩子准教授の挨拶に始まり、平成18年度決算報告と平成19年度予算報告（左表参照）がなされた。

つづいて、新学長中村幸弘先生が、「韓国で活躍する國學院の教え子たち」と題した講演を行った。

懇親会

参加者全員で記念写真を撮影し、今度は会場をサンプラ

ザ栃木に移して懇親会を開始した。

中村学長からは、改めてご挨拶をいただき、木村好成理事長の母校の近況を含めた挨拶、そして、林田孝和国文学科長の発声によって乾杯となった。しばらく歓談がつづいた後、司会進行の白山実事務長より当日出席いただいた教職員・前教職員の先生方の紹介があった。

つづいて中村学長の著書が福引きで当たった卒業生に直接手渡され、卒業生にとってこの日のよき記念となった。最後に全員で校歌を斉唱し会は終了した。

平成18年度斯花会収支決算書

		(単位:円)
【収入】	入息	10,590,000
会費	収利	20,371
受取	雑収入	20,000
前年度繰越金	計	95,654
【支出】	業務費	10,726,025
【支】	立基	5,273,195
【事】	積立	549,267
【事】	積立	4,900,000
【事】	積立	3,563
【事】	積立	10,726,025

平成19年度斯花会収支予算書

		(単位:円)
【収入】	入息	11,010,000
会費	収利	20,000
受取	雑収入	20,000
前年度繰越金	計	3,563
【支出】	業務費	11,053,563
【支】	立基	4,550,000
【事】	積立	470,000
【事】	積立	6,000,000
【事】	積立	33,563
【事】	積立	11,053,563

第59回毎日書道展に多数入選

書道家の専門的な登竜門と呼ばれる、国内最大規模を誇る『毎日書道展』（毎日新聞社、財団法人毎日書道会主催）に在学・聴講生・卒業生が多数入賞・入選し優秀な成績を収めた。

指導教員 審査員出品

会員出品

近詩部

かな部

近詩部

かな部

会友出品

かな部

在学

U23近詩部入選

国2 岡安 南

国2 高山奈々子

家2 金丸 麻美

史2 前田いつみ

聴講生 (内は卒業期)

かな部会友

近詩部会友

かな部入選

五月女慎耀

田中 正代 寺内 礼子

卒業生

近詩部会員出品

(8) 前橋 司澄

(13) 梅澤 司翔

(16) 佐下橋司節

(19) 松藤 司暉

(21) 田中 惺實

(26) 佐々木司風

(3) 石崎 司澁

(10) 星 司光

(19) 末政 司麗

(31) 山田 孝穂

(7) 小岩井司萌

(20) 関川 司晶

(22) 飯塚 恵邦

(25) 岡本 令

(31) 中野渡司順

(28) 大谷 司清

(10) 星 司光

(19) 末政 司麗

(11) 大永 恭子

(18) 星野 順子

(35) 二瓶江里子

(32) 竹盛 愛

(35) 内藤さつき

(37) 阿久津實緑

(40) 上野 裕子

(39) 渡邊 實禮

(40) 上野 裕子

(39) 渡邊 實禮



担任の子どもたち（右端が佐藤由佳さん）

新規採用教員として

私は、今年から新規採用教員として下野市内の小学校に勤務し、5年生33人の担任をしています。元気いっぱい、パワフルな33人の子どもたちと学校生活を送る中で、ぐんぐん成長していく子どもたちと一緒に、私自身も成長していつているのだと日々実感しています。そして、子どもたちの素直さに心が洗われたり、一生懸命さに感動したり、毎日いろいろなことがあります。先日クラスで、給食の「こちそうさま」をした後に、コミュニケーションをとること

が苦手（自分の気持ちを相手に伝えることが苦手）なA君が、隣の子Bちゃんを押して泣かせてしまうということがありました。私は、はじめA君が悪いのだと思いました。しかし、二人によく話を聞くと、Bちゃんは

「A君が片付けをするのが遅くなっってしまったから手伝ってあげよう。」と思い手伝いを始めたそうです。A君は「Bちゃんが自分の手伝いをするのはきつと嫌だろ、早く外に遊びに行きたいだろうから、手伝わなくても大丈夫だよ。」と思い、それを伝えようとして手が出てしまったようです。

私は、この二人のやりとりを聞いて、お互いコミュニケーションが上手くとれずに留めてしまったのは残念でしたが、二人とも友達を気遣う気持ちが持っていたことに心が打たれました。

生き生き卒業生 ②①

児童と共に成長していく私

第35期初等教育学科 佐藤 由佳

下野市立国分寺東小学校教諭

なにげない子どもたちのやりとりの中には、大人が予想もしていないような素晴らしいことがあったり、予想を超えるようなことがたくさんあります。この話をクラスのみんなに話すと、クラス中がとても温かくなったのを感じました。これからも、この優しい気持ちを持ち続けていつてほしいです。

そして、33人と共に子どもたち一人ひとりの居場所がある温かいクラスをつくっていきたいと思っています。

小学校の
教員になろう

私は、短大時代は小学校の教員になりたいと思う気持ちは、あまり強くなかったように思います。

しかし、臨時採用教員として小学校に勤務し、クラスの子どもたちが先生として慕ってくれたり、必要としてくれることで、目の前の子どもたちに応えるためにはどうし



校外学習での一コマ

たらよいのだろうかと考えようになりました。

そして、私の助言一つで、子どもたちが学習に意欲が持てたり、「先生、できたよ。」「分かったよ。」と嬉しそうに目を輝かせたり、友達に自然と思ひやりをもった行動ができたという姿を見て、この仕事のおもしろさに魅せられ、私にはこの仕事しかないと思うようになりました。

採用試験の壁

私は、昨年まで小学校の臨時採用教員として4つの学校に勤務してきました。担任

をしたり、副担任、ティームティーチング、専科などいろいろな立場で勤務してきました。その間、何回も教員採用試験を受験しました。けれど、採用試験の勉強よりも、目の前にいる子どもたちとの日々の授業に追われ、準備不足のまま受験していた事が多く、何度も失敗してしまいました。

しかし、年々仕事をして行く中で、正式に採用されて、思い切り教員として仕事がしたいという思いが強くなり、一昨年前からは、準備をしっかりして受験しようと思いましたが、同じ目標を持つ友達と情報交換をしたり、採用試験に合格した友達に勉強の仕方を教えてもらったり、毎日毎日、時間を惜しんで試験勉強をしました。

その結果、なんとか合格することができました。この合格には、家族の協力、職場、諸先生方の協力、周りで応援してくれた人達の支えがあります。これからは、温かい心持った立派な教員になって、お世話になった色々な方々に恩返しをしたいと思っています。

図書館だより

復刻文芸雑誌 18

特別コレクション③④

おおよそ誌名の五十音順に紹介してきた図書館所蔵復刻文芸雑誌も四十誌を数える。今回は順不同となるが最近入

庫した「復刻版 近代文芸雑誌稀少十誌」(紅野敏郎編 雄松堂出版 平成19)を取り上げる。

復刻版としては、明治以降主流となった文芸雑誌群、あるいは一部の総合雑誌も含めてほぼ姿を現した。現在復刻版として刊行されつつある雑誌は、文壇史の隙間を埋めるに必要な雑誌を必死で探し出して出版する、そういった様相を見る。

今回の「稀少十誌」も、創刊号がそのまま終刊号に繋がるような、それだからこそ発掘されなければならなかった雑誌の数々である。

『ル・イブウ』 創刊大正2・3 木忠社(雄松堂複製 平成19 1冊)
「木菟みみずく」のフランス語を誌名としたこの雑誌は

創刊号以降未確認。言及されることも殆どなかった。

表紙・裏表紙とも津田青楓の版画。

内容は、与謝野晶子、茅野雅子の短歌、長田秀雄、秋田雨雀の戯曲、中村吉蔵の演劇評論をはじめ、継続刊行がなされたならば、大きな特長となつたであろう美術全体に対する志向性を伺わせる美術評論、あるいは石井柏亭、小野

竹橋(竹喬)等のこま絵などの作品が見られる。創刊号1冊を見る限りにおいては小説が一篇もない。小説を排除したとも思えるが、「編輯夜話」によれば、長編、短篇の予告もあることから何とも断定はできない。

『リラ』 創刊大正9・10 リラの花詩社(雄松堂複製 平成19 1冊)
第二輯は来年正月に出す予定と巻末雑録にあるが、二輯は刊行されなかった。

編集人は小林良之助(詳伝不明)。この『リラ』についても文芸史上、文壇史上で言及されることはなく、編集後期にあたる雑録から読み取ると、「第一中学校」(府立一中)で『リラの花』という回覧雑誌を始め、毎月詩、評論、小説、戯曲等の創作や翻訳を発表したり、研究会を開いて既に二ヶ年を経た云々とあり、改めて『リラ』と改題するとある。誌名が改まってからは一輯しか刊行されなかった訳だが、前身となる雑誌が存在していたことは確かかなようだ。

目次を見ると、蔵原惟人、蔵原伸二郎、浅野晃の名が一室にある。ある一時期、ともに同人誌仲間として交わり切磋しあっていた事実が目の前に展げ、後にプロレタリア文学の代表的理論家となる蔵原惟人と従兄の詩人伸二郎、転向の後(日本浪漫派)に加わる浅野晃が、若々しい感性を開きかけた時期の貴重な一誌と言える。目次を見ると詩が多く、「詩」を雑誌の中核に据える意図があったと思われる。見たい方、カウンターまで

図書館長 太田映子

終了した平成19年度春季公開講座

古文書を読む	
一 刃傷松の廊下の記録を読むⅢー	
教授 博士(歴史学) 深井 雅海	
5月23日、30日	
6月 6日、20日、27日	
15:00~16:30 学園教育センター	



古文書を読む	
一箱館戦争の「外務省記録」をよむⅢー	
日本史学科長 教授 博士(歴史学) 田中 正弘	
10月17日、24日、31日	
11月14日、21日	
15:00~16:30 学園教育センター	

歴史にみる文明と文化Ⅲ			
5月26日	関羽信仰と媽祖信仰の変遷	教授 博士(文学)	松本 隆晴
6月 2日	高僧絵伝を読む	講師	菅根 幸裕
6月 9日	松平定信政権成立の裏事情	教授 博士(歴史学)	深井 雅海
6月16日	頼朝の肖像	講師	佐多 芳彦
6月23日	とちぎの乙女、大奥へ	教授 博士(歴史学)	田中 正弘
14:00~16:00		本学735番教室	

これから開催する平成19年度秋季公開講座

歴史にみる文明と文化Ⅲ			
10月20日	織と正直	教授 博士(歴史学)	鍛代 敏雄
11月10日	銅鑼と弥生社会	准教授	小林 青樹
12月 1日	古代日本海の交流	教授 博士(歴史学)	酒寄 雅志
14:00~16:00		二荒山会館(二荒山神社)	

社会人のための教養講座			
9月29日	江戸城本丸御殿の空間と機能	教授 博士(歴史学)	深井 雅海
10月13日	ブランドの機能と経済効果	教授	中塩 聖司
10月20日	国のかたち、あれこれ	教授	佐藤 圭一
10月27日	唐詩選と日本文学	教授	塚越 義幸
11月10日	日本の教育のあり方を考える	教授	山口 令司
11月24日	写真を楽しむ	教授 医学博士	北村 奉正
14:40~16:10		本学735番教室	

就職活動は自分から積極的

6月30日、栃木県幼稚園連合会主催の「平成20年度栃木県幼稚園教諭就職説明会」が宇都宮市のマロニエプラザで開催され、県内幼稚園への就職を希望する学生が多数参加した。次に参加した学生の感想を紹介する。

◆ ◆ ◆
初等教育学科2年 青木 広志

私は就職説明会の事前準備を十分に行うことなく参加してしまい、情けない思いをしました。反省ばかりが残りました。一番の反省は、説明会がどのようなものかをよく知らずに行ったことです。短大の先生方や学生課で事前に詳しく聞くべきでした。私は7園回りましたが、ほとんど話を聞いているだけで、自分からは積極的に質問することもできず、貴重な時間をもてあましてしまいました。

説明会は就職の第一歩であり、幼稚園のことを知ることができる貴重な機会です。就職活動に役立てるためにも準備万端で臨むべきだと思います。

備万端で臨むべきだと思います。

◆ ◆ ◆
初等教育学科2年 細木 悠子

私が会場に着いてまず目に飛び込んできたのは人の多さである。同時に、こんなにもたくさんの人たちが「幼稚園に就職したい」と思っているのだと改めて感じた。

私は、説明を受けるにあたって、幼稚園教諭を志望した動機や自己PRを考えて臨んだが、いざ説明を聞きに行くと何から話していいのかわからず、気付いてみると面談票を出したものの自己紹介をするのも忘れていた。これではいけないと反省し自己紹介をしつかりとし、積極的に採用試験の内容や時期を質問するようにした。

今回、説明会に参加したことで自分から積極的に動かなければいけないと感じた。そのためには、自己PRや質問などを早いうちから考え、準備しておくことが大切である。

教採模試行われる

時事通信社の教員採用試験公開模範試験が、5月12日、735番教室で実施され、国文学科・家政学科・日本史学科の学生16名が受験した。試験は教職・一般教養(70分)、専門教養(中高国語・中高社会・中高家庭・養護教諭)(70分)、論文文(60分)の順で行われ、各試験の「解答・解説」は試験終了後に、成績は5月下旬に手渡された。

教員採用試験は、近年では現役での合格は難しく、短大卒業後、臨時的任用教員として学校に勤務しながら教員採用試験を受験した卒業生から、一次試験や二次試験合格の連絡を受けることが増えてきた。教育の現場では、豊かな人間性、指導力、実践力など教師としての資質の向上が求められており、そのためには、学生時代にアルバイトやボランティア活動などを通じて多くの経験を積むことも大切であるとともに、常日頃から、基礎学力を身につける努力をしなければならない。

事 報

行事・集会

6月4日	国文・家政・日本史学科2年生教育実習(養護のみ22日まで)
5日	高等学校教員対象入試説明会
9日	1年生歌舞伎鑑賞教室(国立劇場)
18日	初等教育学科1年生夏期教育研修
23日	初等教育学科2年生初等教育の観察と参加
22日	教育の観察と参加
7月7日	授業終了
9日	集中講義・補習講義
9日	初等教育学科講演会
9日	家政学科1年生臨床検査
10日	日本史学科1年生史料調査研修
10日	家政学科1年生フー
11日	ド系見学会
11日	日本史学科2年生芸員課程博物館見学
13日	日本史学科1年生芸員課程栃木県立博物館実務見学
14日	初等教育学科講演会・学内演奏会
17日	日本史学科古文書調査実習
19日	初等教育学科音楽発表

表会

9月20日	夏季休暇
9月22日	キャンパス見学会
21日	学生会総会
22日	高校生のためのサマ
8月2日	1スクール
3日	日本史学科考古学実習発掘調査(長岡市)
4・18日	キャンパス見学会
21日	日本史学科考古学実習発掘調査(栃木市)
29日	国文学科1年生コー
9月1日	ス別課外研修
9月3日	授業再開
8日	キャンパス見学会
12日	前期試験
15日	1年生就職模範試験
21日	キャリアカウンセラーによる就職指導講座
25日	後期授業開始

本学および関係者出版紹介

中村幸弘学長編著 「読んで楽しむ日本の唱歌Ⅰ」 右文書院刊
正木孝昌教授著 「受動から能動へ(算数科)二段階授業をもとめて」 東洋館出版社刊
湯川晴美教授著 「食の基本が身につくクック10法(チェックシートと手計りシート付き)」 健康と良い友だち社刊

さまざまな表現活動に親しむ

学内演奏会

第33回の学内演奏会は、7月14日午前9時より、第1音楽室において開催された。まず、第1部は初等教育学科2年生5名による独唱と2名によるピアノ独奏であった。会場は美しくドレスアップした出演者達の歌声や表現力豊かな演奏に魅了され、たくさんの拍手が鳴り響いた。第2部は、室内楽研究会による様々な楽器によるアンサンブル、最後は、コーラス部による爽やかな演奏で盛り上がり実り多いコンサートになった。

岩舟町立小野寺南小学校
表現活動交流会

7月13日、岩舟町立小野寺南小学校での「表現活動交流会」が同校体育館で実施された(II写真)。この企画は昨年度から継続して行われ今回で3回目となり、初等教育学科2年生「専門音楽」履修者と1年生男子を含めた45名の学



生が参加し、「表現活動」《給食》《共遊》の3つの場面で子ども達と交流を深めた。

表現活動の前半は授業等で培った学生達の表現活動を上演し、後半は学生がリーダー役となりワークショップ形式で子ども達と一緒にボディーパーカッションの創作を行った。学生達は百余名の子どものアイディアをうまく生かしながら共に音楽の楽しさを身体全体で表現し、ひとつの

作品にまとめた。その後、体育館でのふれあい給食や元氣あふれる子ども達との共遊にも積極的に取り組み、有意義な一日を過ごした。

教育実習以外にもこのような教育現場での体験は、教員を目指す学生にとって総合的な実践力を高める場となり、ご協力いただいた小野寺南小学校の先生方と子ども達に深く感謝申し上げたい。

音楽発表会

7月19日、40周年記念館において、初等教育学科1・2年生合同による音楽発表会が開かれた。まず2年生「専門

音楽」履修者によるモノドラマ合唱音楽劇「白いぼうし」や身近なものを活用した学生達による創作、次に1年生全員によるクラス別のリコーダー合奏とボディーパーカッション、最後に2年生全員による「クリスマスソング」の合唱等を発表し、互いに鑑賞しあった。

教員をめざす学生にとって、様々な楽器の演奏技術の習得はもちろんのこと、創造的な音楽表現も必要とされる。卒業後はこれらの様々な体験を生かし、表現力豊かな音楽教育を展開してほしいと願っている。

ス花祭のお知らせ

11月17日(土)
9:00~16:00
11月18日(日)
9:00~15:00

テーマ

楓 ~色褪せない伝統と心~

お笑いライブ

たいがー:リー/ジャンファンカ
11月18日(日)11:00開演(10:30開場)
学園40周年記念館

もつこころ

今年の夏は、このほか暑い夏であった。猛暑・酷暑という言葉がそのままあてはまる連日の暑さであった。これが、地球温暖化によるものであるならば、これからの年々は、今年のような暑い夏が連続しておとすれて、やがては地球に異変が起き、生物全体の滅亡につながるのかも知れない。今の中に何か対応策を立てなくてはなるまい。先進諸国は一国の利害を追い求めるのではなく、今こそ人類いや生物全体のために、英知を集結して、ことあたらないならばならない。明日の地球のことが、ひたすら心配されるこの頃である。

○ 学生諸子は、それぞれの夏を有意義に過ごしたように思う。いよいよ前期の日程が終って、後期日程に入るのだが、短期大学の学習期間は短い。一寸の光陰軽んずべからず、一層学業に精励されることを望む。二十年度生として入学を希望する高校生徒のキャンパス見学の姿を見かける時期になった。先輩たちの真摯な学園生活ぶりをみせてやって欲しい。
(好)